

<感染症及び食中毒の発生の予防及びまん延の防止>
感染対策の基礎知識と具体策

～結核～

所属 _____

氏名 _____

この研修の目的

- ・ 結核の発生要因を理解し、その予防に努めることができるようになる。
- ・ 結核発生時の対応を学び、症状悪化や二次感染を予防できるようになる。

MEMO

結核とは

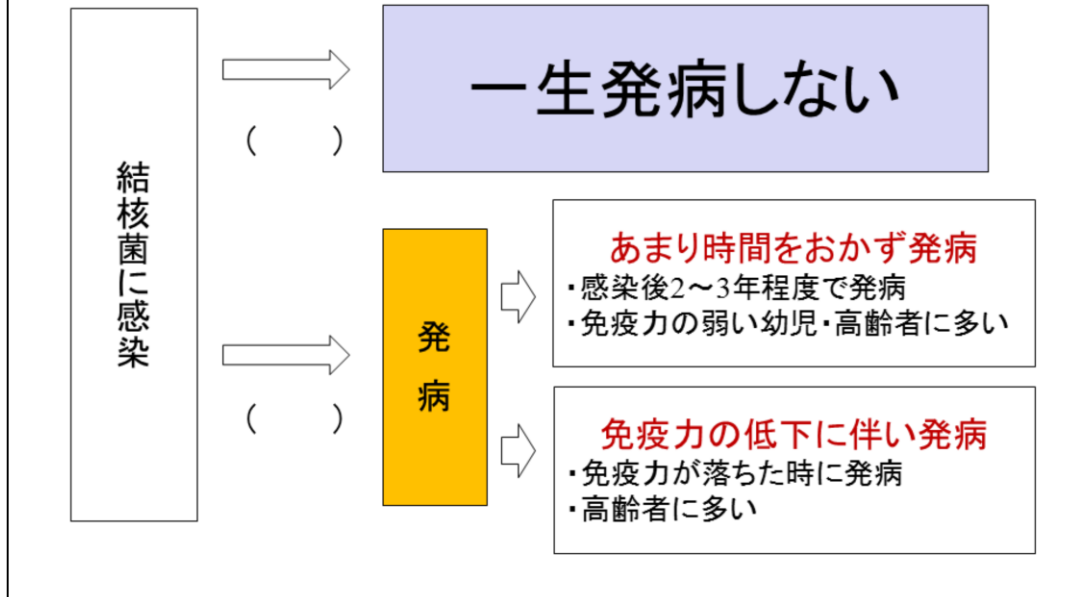
- ・ 「結核菌」が体に入る ⇒ ()
- ・ 抵抗力が弱まると結核菌が増える ⇒ ()
⇒ 発病した場合は()する



結核菌が体内にあっても、()しなければ
()はない

MEMO

結核に感染するとどうなる？



MEMO

結核の症状

- ・ 初期は、()など、風邪と似た症状が現れる
 - ・ 悪化すると、()などの症状が現れる
- ⇒ さらに進行すると、()や()に陥り、()こともある

高齢者ははっきりとした症状が出にくい
⇒ ()が長く続く場合は注意

MEMO

介護施設での結核発生例

- ・ 100名定員の施設に入居していた70歳代の男性
- ・ 咳、痰、微熱などの()が長く続き、主治医を受診したが()
⇒ その後、()となり入院
- ・ 入院先より、「()があるため、専門病院に転送する」との連絡が入り事態を把握
⇒ 転院先にて「結核」の確定診断
- ・ 施設では保健所の立入検査を実施
⇒ 利用者への感染はなく、()を確認
- ・ 施設は感染対策の改善を求められ、改善が認められるまで()
⇒ 感染した職員には施設加入の保険が適用された

MEMO

結核が発病するとどうなる？

①入居者・利用者への影響

- ・ 専門病院での()や()が必要となる
- ・ 発病者の8割程度が()となる
- ・ 重症化すると()こともある
- ・ 結核の集団感染は、その25%程度が
()や()で発生している
⇒ ()が求められる

MEMO

結核が発生するとどうなる？

②職員への影響

- ・ 結核病院への搬送や通院治療が必要となるため、職員の労働量が増える
- ・ 感染者に関わった職員は感染の可能性があるため、()が強く生じる
- ・ 職員が感染していた場合には、発病しないよう()が必要となる
- ・ 発病した場合には、()治療が必要となる

MEMO

結核が発生するとどうなる？

③施設運営への影響

- ・ 感染者の発生を()に報告し、その後の()を協議する
⇒ 発生源や拡大の程度を把握するまでは、利用者の()する必要があるため、()する
- ・ マスクなどの準備で()を伴う
- ・ 保健所からの公表、新聞やテレビで報道などがあると、施設に対する()を失う
⇒ 以降の運営に大きな影響を及ぼす

MEMO

結核の感染拡大予防策

① ()の徹底

職員、利用者、面会者など、施設内に立ち入る方
全てに()の徹底を図る

⇒ 結核だけでなく、風邪やインフルエンザなどの
感染症予防にもなる

② 職員の()

年1回、非常勤職員を含む全職員が、健康診断を
受診する

MEMO

結核の感染拡大予防策

③ ()を準備する

平常時から着用訓練を行い、保管場所や着用のルールを決めておく必要がある

<()とは>

0.1~0.3 μ mの微粒子を95%以上除去するため、結核の飛沫核(空気)感染の防止に役立つ

④ 入所時の健康診断、()の確認

結核の既往歴やそれを疑う症状、免疫力の低下を伴う基礎疾患などの有無を確認する

⇒ 施設内への結核菌の()を防ぐ

MEMO

結核の感染拡大予防策

⑤ 適切な()

咳、痰、発熱、胸痛などの症状が2週間以上続く場合には結核を疑い、マスクの着用を促す
⇒ 感染拡大の危険性が減少する

⑥ 施設内感染対策()

マニュアルを徹底するとともに、年に1回は施設内の感染対策委員会などで内容を見直し、必要に応じて修正する

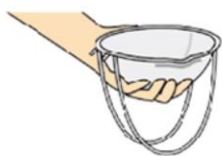
MEMO

咳エチケット

- ・ 自身が咳やくしゃみをしている時は()
を着用する
 - ・ 咳やくしゃみをする時、マスクを着用してい
ない場合には、ティッシュやハンカチなど
で()を押さえ、他の人から()、
離れる
- ⇒ 鼻水・痰などを含んだティッシュはすぐ
に()に捨てる

MEMO

N95マスク装着方法(カップ型)



① マスクの鼻あてを指のほうにして、ゴムバンドが下にたれるように、カップ状に持ちます。



② 鼻あてを上にしてマスクがあごを包むようにかぶせます。



③ 上側のゴムバンドを頭頂部近くにつけます。



④ 下側のゴムバンドを首の後ろにつけます。



⑤ 両手で鼻あてを押さえながら、指先で押さえつけるようにして鼻あてを鼻の形に合わせます。



⑥ 両手でマスク全体をおおい、息を強く出し空気が漏れていないかユーザーシールチェックを行います。

MEMO

N95マスク装着方法(三つ折り型)



- ① マスクの上下を確認し、広げます。ノーズワイヤにゆるやかなカーブをつけます。



- ② 鼻とあごを覆います



- ③ マスクを押さえながら上ゴムバンドを頭頂部へ、下ゴムバンドを首まわりにつけます。



- ④ マスクを上下に広げ、鼻とあごを確実に覆います。



- ⑤ 両手の指で鼻あてが鼻に密着するように軽く押しします。



- ⑥ 両手でマスクを覆い、空気漏れをチェックして密着のよい位置にマスクを合わせます。

MEMO

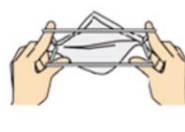
N95マスク装着方法(くちばし型)



① マスクを上下に下げ、ノーズワイヤーにゆるいカーブをつけます。



② マスクを上に掲げ、ゴムバンドをたらしめます。



③ 人差し指と親指で2本のゴムバンドを分けます。



④ ゴムバンドを指で把持しながら、顎の下にマスクを当てます。



⑤ ゴムバンドを引き上げ、頭頂部と首の後ろにバンドをかけます。



⑥ 2本のゴムの角度は90度になるようにします。



⑦ ノーズワイヤを指で押し当て、鼻の形に合わせる。



⑧ ユーザーシールチェックを行い、フィットを確認します。

MEMO

結核にいち早く気づくために 観察のポイント

- ・ 施設では、感染症そのものを無くすことは難しい
- ・ 異常の早期発見に向け、入所者の普段の様子を把握しておくことが重要

ポイントは？

以下のような症状が()続く場合には、看護師に報告し、早期受診につなげる。

【 】【 】【 】【 】【 】【 】【 】

「 」と感じたら、すぐに報告！

MEMO

結核発生時の対応

結核は感染拡大しやすいことを理解し、それを疑う症状が出た場合には、()を心掛ける

① 結核の疑い→診断まで

<咳が出ている場合>

- ・()を着用してもらう
- ・()を行い居室の()を十分に行う
- ・他者との()する
- ・職員が接触する場合は()を着用する

② 診断後

管理者は管轄保健所へ結核の発生を報告

MEMO

結核発生時の対応

③ 専門病院での入院治療または通院治療の開始
専門病院へ搬送する職員は()を着用し、車内は常に換気する

④ 感染対策委員会での協議
施設利用者や職員の健康状態を確認し、情報収集に努める

⇒ 同時に、利用者や家族、職員が()にならないよう配慮する

MEMO

結核発生時の対応

⑤ 事後対応の検討

集めた情報を基に主治医、保健所と協議し、感染者と関わった頻度が高い利用者、職員は受診するよう説明する

⇒ 求めに応じ、利用者や職員の名簿などを保健所へ提出

⇒ 以降も保健所との連携を継続する

結核発生の際には、()と連携し、適切な対応を行うこと！

MEMO

結核予防における 介護職の役割

- ・ 高齢者施設での結核対策の基本は、
()と()とされています
- ・ 感染症の確かな知識と情報、
()(標準予防策)や
予防具着用を適切に行える技術を持ち、
重要なサインを見逃さないようにしましょう
- ・ 「結核は昔の病気」という認識は改め、感
染症予防の視点から、日頃から適切な対
応を心掛けましょう

MEMO
